

令和5年度 学校運営協議会拡大協議会 議事録

1 挨拶

代表して、山本信一さんと鈴峰中学校長からあいさつ

2 これまでの経過

- ・H30.2.2 鈴峰中学校CS連絡協議会準備会（教育支援課CS研修会） 鈴鹿市役所
- ・H30.6.23 第1回連絡協議会（鈴峰中学校ブロックPTA連絡協議会①） 椿会館
- ・H31.1.19 第2回連絡協議会（鈴峰中学校ブロックPTA連絡協議会②） 椿小学校
- ・R1.6.22 第3回連絡協議会（鈴峰中学校ブロックPTA連絡協議会①） 椿会館
- ・R2.1.18 第4回連絡協議会（鈴峰中学校ブロックPTA連絡協議会②） 深伊沢小学校
- ・R2.11.26 第1回拡大協議会（委員長・地域Co・校長・PTA会長） 鈴峰中学校
- ・R3.12.6 第2回拡大協議会（鈴峰中学校区学校運営協議会委員） 鈴峰中学校
- ・R4.11.28 第3回拡大協議会（鈴峰中学校区学校運営協議会委員） 鈴峰中学校

3 これまでの活動

- ・各校の現状と課題（情報共有）
- ・「ラジオ体操の会」の共催
- ・地域で育てたい子ども像⇒目標・キャッチフレーズの策定
- ・学校祭・各地区まつりの交流・還流
- ・市内の各中学校区学校運営協議会の活動について
- ・「子どもフォーラムれいほう」への参加

4 講演 『地域ぐるみで学びを支える～地域の未来を担う子どもたちのために～』

講師：鈴鹿市教育委員会事務局教育支援課

田中 保子 副参事兼学校支援グループリーダー

※内容については、別添資料参照

5 分科会

◆テーマ別のグループ協議及び報告

- ① 学校行事（運動会、学校祭、修学旅行、社会見学等） 進行：椿小校長

【協議内容】

- ・学校行事は教科の学習と共に大切な教育活動である。子どもが自ら考え行動する力やコミュニケーション力が身につく、非認知能力の育成につながる。
- ・コロナ以前と以後とを比べると、中身は元に戻りつつあるが、無駄が省かれ負担が軽減され、より効率よく進められるようになってきている。運動会は、各校様々な工夫がされている。種目が精選されたり昼食後の活動が復活したり、それぞれの学校の実情に合わせている。修学旅行は、県内から県外へと行き先が元に戻った。当日までに訪問先についての調べ学習を積み、実物を見てたくさんの学びを得ている。
- ・修学旅行も社会見学も、単級校は経費が割高になる。複数校が合同で取り組めば安くなり、各校の交流を深め連携を強化することにもつながるのではないかと。

② 学力向上と家庭学習 進行：鈴西小校長

【協議内容】

- ・ 躰は家庭、学力は学校で役割分担しながら協力していくことが大切である。
- ・ 学力も大切だが田舎の学校には田舎の良さがあると感じている。
- ・ 子どもの学力等に対して親の関心が低い。
- ・ 文書表現はできるようになってきているが、漢字が書けなくなってきている。表現力の育成と漢字の習得、どちらを優先していくか迷っている。
- ・ 自主学習を小学校から宿題等で行っている。そのことが中学校での自学につながっている。
- ・ 学習したことの定着は、家庭学習によるところが大きい。
- ・ 縦割り班での活動がどの小学校でも行われていることが、児童数の少ない中での子どもの情緒の発達にはよいことだと思う。
- ・ 以前に比べ自分の思いを発言しようとする子が増えてきている。

③ PTA活動・環境整備 進行：深伊沢小校長

- ・ 子どもたちが安心して過ごせるよう、各校行事前などPTA全員での環境整備を年1回または2回行っている。しかし、それだけでは十分でないので、それぞれの部で消毒や除草剤散布を行ったり、環境ボランティアさんをお願いしたりしている。
- ・ 費用はPTA会費で賄えていて、今後も続けていく。
- ・ 参加しない人の扱いが課題、ペナルティを科すなどしているPもある。
- ・ 児童数の減少に伴いPTA会員数も減少しているので、手が行き届かないところが出てきている。
- ・ 安全面での課題があり、市への働きかけもしている。

④ 安全安心（交通安全・防災） 進行：鈴峰中校長

- ・ 306号の歩道ができたが、横断歩道がないため有効活用されていない。自治会から要望を上げたが、歩道に生徒がとどまるスペースがないため、横断歩道の設置を見送るとの回答だった。
- ・ 同じ交差点の違う方向に横断歩道をつけてもらうように、もう一度あげていく予定である。次は自治会、学校運営協議会、PTAの連名で要望したらどうか。
- ・ 中学生が交差点を大回りするので危ない。信号が点滅し始めると慌てて渡ろうとするので危ない。
- ・ 通学路の草が伸びていて危険。こんなとき学校運営協議会で情報共有することで、行政から地主に依頼を出してもらって整備することができた。

⑤ 地域づくり協議会との連携・協働 進行：庄内小校長

- ・学校と地域づくり協議会との連携や協働は大切にしていける必要がある。地域づくり協議会間で協力していき気持ち強い。
- ・取組や行事を行うときの難しさがある。横の連携（地域づくり協議会間など）が取りにくい。（庄内のように）行政区や地域づくり協議会、学校が一つのところは連携や協働がしやすいと推測できるが、多くの行政区はそうではない。
- ・地域づくりで行事を行おうとすると、A小学校は実施可能でもB小学校は他行事と重なり、実施不可能ということがしばしばある。以前から、行事の調整をスムーズにできないかと考えてきた。キーステーションとなる場の必要性を感じている。例えば、鈴峰中学校の学校運営協議会がそのような場にならないかと考えている。
- ・どのようなことを連携していけるかが課題である。子どもたちのことで連携して行事を行う場合でも、予算の使い方に問題が生じてくる。（例えば、1つの市民センターに対して複数の小学校がある。）
- ・単級校から進学した後、不登校になってしまうケースがあるという実態を聞いているので、子ども同士の関係づくりを中心に連携していきのはよいと思う。今年度、椿と庄内の6年生が交流会を持つように学校行事として企画している。まずは、そのことをスタートにどんなことができるかをこれから検討していったらどうか。